

(様式第 10)

佐大医経第 5 3 6 1 号
平成 2 6 年 1 0 月 3 日

九州厚生局長 殿

佐賀大学医学部附属病院
病院長 森田 茂樹 (印)

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 5 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 8 4 0 - 8 5 0 2 佐賀市本庄町 1
氏 名	国立大学法人佐賀大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

佐賀大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 8 4 9 - 8 5 0 1	佐賀市鍋島 5 - 1 - 1	電話 (0 9 5 2) 3 4 - 6 5 1 1
-------------------	-----------------	----------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 消化器内科 4 肝臓・糖尿病・内分泌内科 5 血液・腫瘍内科 6 神経内科 7 腎臓内科 8 緩和ケア内科 9 リウマチ科 10 11	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 心臓血管外科 3 消化器外科 4 脳神経外科 5 整形外科 6 形成外科 7 8 9 10 11 12 13	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3	4	5
--------------	---------	---	---	---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
24床	0床	0床	0床	580床	604床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	306人	172人	379.2人	看 護 補 助 者	55人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	12人	4人	14.5人	理 学 療 法 士	19人	臨床検査技師	36人
薬 剤 師	37人	0人	37人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	2人	検 査 そ の 他	0人
助 産 師	17人	1人	17.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	614人	26人	632.4人	臨床工学技士	12人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	33人
歯科衛生士	1人	0人	0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	207人
管理栄養士	6人	0人	0人	診療放射線技師	31人	そ の 他 の 職 員	15人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	20人	眼 科 専 門 医	7人
外 科 専 門 医	20人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精 神 科 専 門 医	5人	放射線科専門医	13人
小 児 科 専 門 医	10人	脳神経外科専門医	7人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	8人	麻 酔 科 専 門 医	13人
産婦人科専門医	8人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	144人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	472.3人	11.2人	483.5人
1日当たり平均外来患者数	905.6人	46.2人	951.8人
1日当たり平均調剤数			729.5剤
必要医師数			105人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			10人
必要(准)看護師数			275人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	293.8m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	73.81m ² 病床数 5床			
	[移動式の場合]	台数	11台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	38.0m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	共用なし			
化学検査室	224.0m ²	鉄筋コンクリート	自動血液分析機、自動生化学分析機			
細菌検査室	105m ²	鉄筋コンクリート	自動塗布装置、自動薬剤感受性検査装置			
病理検査室	73m ²	鉄筋コンクリート	自動包埋装置、クリオスタット			
病理解剖室	79m ²	鉄筋コンクリート	特殊解剖台、特殊型計量測定運搬車			
研究室	3,060m ²	鉄筋コンクリート	顕微鏡、遠心機、培養装置、パソコン			
講義室	1,277m ²	鉄筋コンクリート	室数	8室	収容定員	987人
図書室	1,061m ²	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数	115,300冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	78.82%	逆紹介率	57.98%
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,728人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,614人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,983人	
	D: 初診の患者の数	14,858人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	6人
実物大臓器モデルによる手術支援	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	49人	・膿疱性乾癬	9人
・多発性硬化症	53人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	66人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス	215人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	81人
・再生不良性貧血	26人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	59人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	15人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	149人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	46人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	23人	・肺動脈性肺高血圧症	9人
・潰瘍性大腸炎	159人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	24人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	10人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	55人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	7人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	69人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	11人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	18人
・後縦靱帯骨化症	23人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	149人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・黄色靱帯骨化症	14人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	37人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料	・地域歯科診療支援病院入院加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児特定集中治療室管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算	・食堂加算
・急性期看護補助体制加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・糖尿病合併症管理料	・歯科技工加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・外来緩和ケア管理料	・頭蓋骨形成手術(骨移植を伴うものに限る)
・糖尿病透析予防指導管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来放射線照射診療料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術
・ニコチン依存症管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)(歯科)
・地域連携診療計画管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算
・がん治療連携計画策定料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・がん治療連携管理料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・認知症専門診断管理料	・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図計摘出術
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・医療機器安全管理料2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・HPV核酸検出	・補助人工心臓
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的大動脈遮断術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ダメージコントロール手術
・植込型心電図検査	・腹腔鏡下肝切除術
・時間内歩行試験	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・胎児心エコー法	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ヘッドアップティルト試験	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・皮下連続式グルコース測定	・同種死体腎移植術
・神経学的検査	・生体腎移植術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・小児食物アレルギー負荷検査	・人工尿道括約筋植込・置換術

・小児食物アレルギー負荷検査	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内服・点滴誘発試験	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
・センチネルリンパ節生検1, 2	・輸血管理料Ⅰ
・CT透視下気管支鏡検査加算	・自己生体組織接着剤作成術
・画像診断管理加算2	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・内視鏡手術用支援機器加算
・CT撮影及びMRI撮影	・歯周組織再生誘導手術
・冠動脈CT撮影加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・外傷全身CT加算	・麻酔管理料(Ⅰ)
・大腸CT撮影加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・心臓MRI撮影加算	・放射線治療専任加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・外来放射線治療加算
・外来化学療法加算1	・高エネルギー放射線治療
・無菌製剤処理料	・強度変調放射線治療(IMRT)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・定位放射線治療
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・集団コミュニケーション療法料	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・医療保護入院等診療料	・病理診断管理加算2
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・一酸化窒素吸入療法	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 27例 / 剖検率 7.80%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
特発性大腿骨頭壊死症の 病因遺伝子解析と予防法 開発への応用	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	5,000,000円	③補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の 診断・治療・予防法の開発 を目的とした全国学際的 研究	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,080,000円	③補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
成人スチル病の病態発現 におけるToll様受容体の 研究	末松 梨絵	膠原病・リウマチ内科	1,560,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
テラーメード治療のため の血漿遊離DNAを用いた 遺伝子変異モニタリングシ ステム	中村 朝美	呼吸器内科	1,430,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
アルツハイマー病における 脳の慢性炎症病態解析と 治療法開発	原 英夫	神経内科	1,950,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
スモンに関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	700,000円	③補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
プリオン病及び遅発性ウイ ルス感染症に関する調査 研究	雪竹 基弘	神経内科	550,000円	③補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
CML幹細胞化因子の同定 とその制御	木村 晋也	血液・腫瘍内科	1,690,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
包接化合物シクロデキスト リンの抗腫瘍作用とそのメ カニズム解析	久保田 寧	血液・腫瘍内科	3,510,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
循環器病における時計遺 伝子の解析	野出 孝一	循環器内科	2,080,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
新規バイオメーカーの開 発・検証	野出 孝一	循環器内科	1,000,000円	③補委 独立行政法人 国立循環器病研究 センター
動脈硬化性血管障害診断 指標としての内皮依存血 液介在上腕動脈拡張反応 検査(FDM)の確立	野出 孝一	循環器内科	892,000円	③補委 公益信託 日本動 脈硬化予防研究基 金(FDM多施設共 同研究)
高齢慢性心疾患における 終末期医療に関する研究	野出 孝一	循環器内科	15,000,000円	③補委 公益財団法人 住 友重工グループ社 会貢献基金
視床下部と自律神経系に よる代謝調節機構の解明: 個体・細胞レベルでの検 討	藤本 一眞	消化器内科	1,690,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金
腸管希少難病群の疫学、 病態、診断、治療の相同 性と相違性から見た包括 的研究	藤本 一眞	消化器内科	500,000円	③補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
肝癌の分子標的治療にお けるVitamin K2アジュ バント効果の基礎的研究	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌 内科	780,000円	③補委 文部科学省(日本 学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ウイルス性肝疾患患者の食事・運動療法とアウトカム評価に関する研究	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科	3,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
HIF-1 α 依存的脈管新生を介した胃癌腹膜播種形成機序の証明と新規治療法の開発	池田 貯	一般・消化器外科	1,430,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
TFF1分泌蛋白を用いた消化器癌治療モデルの確立	中村 淳	一般・消化器外科	1,950,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
癌細胞選択的アポトーシス活性化小分子化合物を用いた新規胃癌治療の確立	井手 貴雄	一般・消化器外科	1,170,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
未分化型胃癌に対する低酸素誘導エピジェネティック分子を標的とした治療モデルの確立	古賀 靖大	一般・消化器外科	1,170,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
新規組織工学によるiPS細胞からの心臓血管臓器再生療法の開発	森田 茂樹	心臓血管外科	8,840,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
組織工学による3次元自己細胞由来心臓血管組織を用いた次世代型心臓手術技術の開発	古川 浩二郎	心臓血管外科	1,950,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
特発性気胸におけるプレブ形成の病態解明	武田 雄二	心臓血管外科	1,560,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
組織工学と幹細胞研究を融合させた新規自己細胞由来人工血管による再生医療	蒲原 啓司	心臓血管外科	1,170,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
幹細胞由来大型心筋移植片の心筋再生効果の解析	野口 亮	心臓血管外科	1,170,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	馬渡 正明	整形外科	1,080,000円	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
膀胱尿路上皮癌細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
膀胱癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細胞の役割とその制御機構	徳田 雄治	泌尿器科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
糖尿病足に対する生体力学に基づいた予防的手術の有効性の検討	菊池 守	形成外科	3,120,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
膝疾患における膝組織血流量の多元的臨床的評価法の確立	入江 裕之	放射線科	2,080,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
高次脳機能障害におけるASL-MRI脳血流画像での臨床的解析法の確立	野口 智幸	放射線科	1,690,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
脊髄血液灌流の評価方法の確立	江頭 秀哲	放射線科	1,300,000円	補委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
気道のTh2環境決定におけるTSLP等の活性物質とアラキドン酸代謝物との相互作用	濱崎 雄平	小児科	1,950,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎の発症・症状の制御および治療法の確立普及に関する研究	濱崎 雄平	小児科	1,000,000円	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
人工多能性幹細胞を用いたもやもや病の病因病態解析と治療法の開発	松尾 宗明	小児科	1,170,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
神経皮膚症候群に関する調査研究	松尾 宗明	小児科	900,000円	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
ゲノムワイド父性ダイノミーの分子病態に関する研究	大塚 泰史	小児科	1,820,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
小児気管支喘息発症および気道炎症に関わるクラス3セマフォリンの役割の解明	山本 修一	小児科	1,690,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
自主開発の手術補助剤を基盤にした手術用観察系の開発と新たな機能探究の包括的研究	江内田 寛	眼科	2,637,547円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
徐放作用を有する網膜接着糊を用いた網膜剥離および虚血性網膜疾患の治療法	平田 憲	眼科	1,300,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
siRNAによる緑内障モデルラットにおける視神経節保護効果の検討	石川 慎一郎	眼科	1,300,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
舌癌の上皮-間葉系移行(EMT)におけるラミニン γ 2鎖発現の意義に関する研究	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	1,820,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
舌癌患者に対する間葉系幹細胞を用いた新たな舌再建法の確立	山下 佳雄	歯科口腔外科	3,120,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
Wntシグナルを活性化し増殖させた歯髄幹細胞と歯の硬組織は骨補填材になりうるか?	檀上 敦	歯科口腔外科	2,340,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
自己細胞由来人工皮膚グラフトを用いた重症熱傷治療法の開発	小網 博之	救命救急センター	1,820,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	江口 有一郎	肝疾患センター	1,000,000円	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
地域医療連携の全国普及を目指した地理的境界や職種の境界を超えた安全な情報連携に関する研究	江口 有一郎	肝疾患センター	500,000円	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
心拍変動を用いた研修医の自律神経機能・ストレス評価と研修プログラム適正化への応用	吉田 和代	卒後臨床研修センター	1,170,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
アレルギー性炎症におけるマトリセルラータンパク質の役割の解明および治療への応用	太田 昭一郎	検査部	1,950,000円	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低酸素応答遺伝子HIF- α によるリンパ腫発生促進機構の解析	末岡 榮三朗	輸血部	1,430,000円	補 委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
心筋細胞の生存・分化・脂肪毒性における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理診断科	1,170,000円	補 委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
病理医育成および診断プログラムの研究	戸田 修二	病理診断科	1,788,000円	補 委	社団法人 日本健康倶楽部福岡支部
悪性黒色腫細胞の生存、増殖、遊走、浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構の解明	青木 茂久	病理診断科	1,950,000円	補 委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
コラーゲンビトリゲルを用いた新規創部被覆材に関する研究開発	青木 茂久	病理診断科	8,600,000円	補 委	農林水産技術会議事務局
肝細胞の生存・増殖・分化・脂肪毒性における脂肪組織の役割とその制御機構	西島 亜紀	病理診断科	2,080,000円	補 委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金
骨芽細胞の増殖・分化・脂肪毒性における骨髄脂肪組織の影響とその制御機構の解明	内橋 和芳	病理診断科	1,560,000円	補 委	文部科学省(日本学術振興会)科学研究費補助金

小計 7

合計 57

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Increased RP105-Negative B Cells in IgG4-Related Disease.	Open Rheumatol J. 7:55-57,2013.
2	田畑 絵美	神経内科	Immunopathological significance of ovarian teratoma in patients with Anti-N-Methyl-D-Aspartate receptor encephalitis.	Eur Neurol. 71(1-2):42-48, 2014.
3	南里 悠介	神経内科	Stroke scale items associated with neurologic deterioration within 24 hours after recombinant tissue plasminogen activator therapy.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 22(7):1117-1124, 2013.
4	尾山 純一	循環器内科	Do incretins improve endothelial function?	Cardiovasc Diabetol. 13:21,2014.
5	中村 郁子	循環器内科	Possible effects of glimepiride beyond glycemic control in patients with type 2 diabetes: a preliminary report.	Cardiovasc Diabetol. 13:15,2014.
6	尾山 純一	循環器内科	Endothelium-derived hyperpolarizing factor and hypertension.	Hypertens Res. 36(10):852-853, 2013.
7	琴岡 憲彦	循環器内科	Home telemonitoring study for Japanese patients with heart failure (HOMES-HF): protocol for a multicentre randomised controlled trial.	BMJ Open. 3(6):e002972,2013.
8	琴岡 憲彦	循環器内科	Predictive value of high-molecular weight adiponectin in subjects with a higher risk of the development of metabolic syndrome: From a population based 5-year follow-up data.	Int J Cardiol. 167(3):1068-1070, 2013.
9	野出 孝一	循環器内科	Baseline and 1-year interim follow-up assessment of Japanese patients initiating insulin therapy who were enrolled in the cardiovascular risk evaluation in people with type 2 diabetes on insulin therapy study: an international, multicenter, observational study.	Cardiovasc Diabetol. 12(1):131,2013.
10	高島 毅	腎臓内科	Two cases of minor glomerular abnormalities with proteinuria disproportionate to the degree of hypoproteinemia.	CEN Case Rep. Published online: 14 February 2014.
11	岩切 龍一	光学医療診療部	Randomised clinical trial: rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan.	Aliment Pharmacol Ther. 38:729-740,2013.
12	中野 良	光学医療診療部	Factors affecting short- and long-term effects of leukocyte removal therapy in active ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol. 28:303-308,2013.
13	藤本 一眞	消化器内科	Guidelines for gastroenterological endoscopy in patients undergoing antithrombotic treatment.	Dig Endosc. 26:1-14, 2014.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
14	松田 やよい	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Perioperative sequential monitoring of hemodynamic parameters in patients with pheochromocytoma using the Non-Invasive Cardiac System (NICaS).	Endocr J. 61(6):571-575, 2014.
15	河口 康典	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Interaction between hepatitis C virus and metabolic factors.	World J Gastroenterol. 20(11):2888-2901, 2014.
16	桑代 卓也	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Impairment of health-related quality of life in patients with chronic hepatitis C is associated with insulin resistance.	J Gastroenterol. 49:317-323,2014.
17	三砂 範幸	皮膚科	The relationship between palisaded encapsulated neuroma and the mucocutaneous neuroma seen in multiple endocrine neoplasia 2b syndrome:A histopathologic and immunohistochemical study.	Am J Dermatopathol. 36(7):562-569, 2014.
18	三砂 範幸	皮膚科	Recurrent keratoacanthomas developing after spontaneous resolution.	Acta Derm Venereol. 93(6):725-726, 2013.
19	三砂 範幸	皮膚科	Controversial concepts: Infundibular squamous cell carcinoma and tricholemmal carcinoma.	Am J Dermatopathol. 35(4):523-524, 2013.
20	三砂 範幸	皮膚科	The possibility that multiple mucocutaneous (palisaded encapsulated and nonencapsulated) neuromas may be a distinct entity.	JAMA Dermatol. 149(4):498-500, 2013.
21	三砂 範幸	皮膚科	Keratoacanthoma and other types of squamous cell carcinoma with crateriform architecture: Classification and identification.	J Dermatol. 40(6):443-452, 2013.
22	永瀬 浩太郎	皮膚科	CD4/CD8 Double-negative mycosis fungoides mimicking erythema gyratum repens in a patient with underlying lung cancer.	Acta Derm Venereol. 94:89-90,2014.
23	永瀬 浩太郎	皮膚科	Mucha-habermann disease-like eruption following pandemic influenza H1N1 vaccination: Coincidence or causal relationship?	J Clin Exp Dermatol Res. 4(3):181,2013.
24	井手 貴雄	一般・消化器外科	Prediction of postoperative complications in elderly patients with hepatocellular carcinoma.	J Surg Res. 185:614-619,2013.
25	小池 健太	一般・消化器外科	The Clinical Benefit of High-Dose Toremifene for Metastatic Breast Cancer.	Jpn J Cancer Chemother. 40(7):877-880, 2013.
26	三宅 修輔	一般・消化器外科	HIF-1 α is a crucial factor in the development of peritoneal dissemination via natural metastatic routes in scirrhous gastric cancer.	Int J Oncol. 43:1431-1440, 2013.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
27	三好 篤	一般・消化器外科	Appraisal of simultaneous laparoscopic splenectomy and hepatic resection in the treatment of hepatocellular carcinoma with hypersplenic thrombocytopenia.	Hepatogastroenterology. 60:1689-1692, 2013.
28	森戸 清人	一般・消化器外科	Primary squamous cell carcinoma of the liver concomitant with primary colon cancer:report of a case.	Clin J Gastroenterol. 6(2):134-138,2013.
29	能城 浩和	一般・消化器外科	Triangulating stapling technique for esophagogastrostomy after minimally invasive esophagectomy.	Surgery. 154(3):604-610, 2013.
30	能城 浩和	一般・消化器外科	Thoracoscopic esophagectomy using prone positioning.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 19(6):399-408, 2013.
31	田中 智和	一般・消化器外科	Loss of trefoil factor 1 is regulated by DNA methylation and is an independent predictive factor for poor survival in advanced gastric cancer.	Int J Oncol. 42:894-902.2013.
32	櫻木 徹	呼吸器外科	Is bipolar thermofusion an acceptable option for unseparated interlobar fissure division in pulmonary lobectomy?	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 17(1):26-31,2013.
33	蒲原 啓司	心臓血管外科	Hybrid One-Stage Repair Using a Sutureless Telescoped Stent Graft Fixation for Ruptured Multiple Thoracic Aortic Aneurysms.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014.
34	蒲原 啓司	心臓血管外科	Evaluation of the Optimal Visceral Branch Configuration in Open Thoracoabdominal Aortic Repair by Computed Tomography.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014.
35	佐藤 久	心臓血管外科	Surgical treatment of valvular and supra-ventricular aortic stenosis in homozygous familial hypercholesterolemia.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2014.
36	松島 健	脳神経外科	Posterior condylar canals and posterior condylar emissary veins—a microsurgical and CT anatomical study.	Neurosurg Rev. 37(1):115-126, 2014.
37	中原 由紀子	脳神経外科	Importance of awareness of the rhomboid lip in microvascular decompression surgery for hemifacial spasm.	J Neurosurg. 119(4):1038-1042, 2013.
38	緒方 敦之	脳神経外科	Carotid artery stenting without post-stenting balloon dilatation.	J NeuroIntervent Surg. 6:517-520,2014.
39	園畑 素樹	整形外科	The relationship between neuropathic pain, and the function of the upper limbs based on clinical severity according to electrophysiological studies in patients with carpal tunnel syndrome.	Open Orthop J. 7:99-102,2013.
40	秋山 隆行	整形外科	Silver oxide-containing hydroxyapatite coating has in vivo antibacterial activity in the rat tibia.	J Orthop Res. 31(8):1195-1200, 2013.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
41	河野 俊介	整形外科	Failure analysis of alumina on alumina total hip arthroplasty with a layered acetabular component: minimum ten-year follow-up study.	J Arthroplasty. 28(10):1822-1827, 2013.
42	園畑 素樹	整形外科	Clinical characteristics of neuropathic pain in patients with carpal tunnel syndrome.	Hand Surg. 19(1):43-48,2014.
43	森本 忠嗣	整形外科	The termination level of the conus medullaris and lumbosacral transitional vertebrae.	J Orthop Sci. 18(6):878-884, 2013.
44	高原 光平	泌尿器科	Suture Granuloma Showing False-Positive Findings on FDG-PET.	Case Reports in Urology.Volume 2013,Article ID 472642,3Pages Http://dx.doi.org/1 0.1155/2013/4726 42
45	有働 和馬	泌尿器科	Prognostic Impact of Subclassification of Radical Prostatectomy Positive Margins by Linear Extent and Gleason Grade.	J Urol. 189(4):1302-1307, 2013.
46	江頭 玲子	放射線科	CT findings of thoracic manifestations of primary Sjögren syndrome: radiologic-pathologic correlation.	Radiographics. 33(7):1933-1949, 2013.
47	江頭 玲子	放射線科	Differential distribution of lymphatic clearance between upper and lower regions of the lung.	Respirology. 18(2):348-353, 2013.
48	北野 庸	放射線科	CT-Gastrography for early gastric cancer visualized by wall-carving technique; value of portal phase contrast-enhanced MDCT.	Fukuoka Igaku Zasshi. 104(5):89-98,2013.
49	野口 智幸	放射線科	Arterial spin-labeling MR imaging in moyamoya disease compared with clinical assessments and other MR imaging findings.	Eur J Radiol. 82(12):e840-e847, 2013.
50	山口 健	放射線科	Decision making for breast lesions initially detected at contrast-enhanced breast MRI.	AJR Am J Roentgenol. 201(6):1376-1385, 2013.
51	山口 健	放射線科	Breast cancer detected on an incident (second or subsequent) round of screening MRI: MRI features of false-negative cases.	AJR Am J Roentgenol. 201(5):1155-1163, 2013.
52	戸山 真吾	放射線科	Long-term results of carbon ion radiation therapy for locally advanced or unfavorably located choroidal melanoma : Usefulness of CT-based 2-port orthogonal therapy for reducing the incidence of neovascular glaucoma.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 86(2):270-276, 2013.
53	門司 晃	精神神経科	Neuroinflammation in schizophrenia especially focused on the role of microglia.	Prog Neuropsychopharm acol Biol Psychiatry. 42(5):115-121, 2013.
54	門司 晃	精神神経科	A case of late-onset bipolar disorder with severely abnormal behavior and neuroimaging observations very similar to those of frontotemporal dementia.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 26(1):E35,2014.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
55	溝口 義人	精神神経科	A case of psychotic depression successfully treated with sertraline as monotherapy.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 26(1):E12,2014.
56	松尾 宗明	小児科	Reply: Lung toxicity of hydroxyl- β -cyclodextrin infusion.	Mol Genet Metab. 109(2):233,2013.
57	松尾 宗明	小児科	Efficacy of dextromethorphan and cyclosporine A for acute encephalopathy.	Pediatr Neurol. 48(3):200-205, 2013.
58	松尾 宗明	小児科	Effects of cyclodextrin in two patients with Niemann-Pick Type C disease.	Mol Genet Metab. 108(1):76-81,2013.
59	永井 功造	小児科	Clinical characteristics and outcomes of chédiak-Higashi syndrome: A nationwide survey of Japan.	Pediatr Blood Cancer. 60(10):1582-1586, 2013.
60	谷口 一登	地域医療支援学(小児科)	Blockade of interleukin-33 attenuates allergic contact dermatitis in model mice: possible mechanism via eosinophil infiltration.	J Clin Exp Dermatol Res. 4(3):1000183,2013.
61	谷口 一登	地域医療支援学(小児科)	Interleukin 33 is induced by tumor necrosis factor α and interferon γ in keratinocytes and contributes to allergic contact dermatitis.	J Investig Allergol Clin Immunol. 23(6):428-434, 2013.
62	谷口 一登	地域医療支援学(小児科)	Periostin Controls Keratinocyte Proliferation and Differentiation by Interacting with the Paracrine IL-1 α /IL-6 Loop.	J Invest Dermatol. 134:1295-1304, 2014.
63	松尾 宗明	小児科	Characterization of early onset neurofibromatosis type 2.	Brain Dev. 36:148-152,2014.
64	在津 正文	小児科	Acute alcohol intoxication in a 15-day-old neonate.	Pediatr Int. 55(6):792-794, 2013.
65	富田 由紀子	麻酔科蘇生科	Identification of 62-kDa protein as an immunogenic antigen of <i>Vibrio vulnificus</i> for humans.	Fukuoka Igaku Zasshi. 104(7):222-233, 2013.
66	谷川 義則	麻酔科蘇生科	Non-recovery of ACT in a patient with heparin-induced thrombocytopenia type II during mitral valve replacement using argatroban anticoagulation.	J Anesth. 27(6):951-955, 2013.
67	上村 裕平	麻酔科蘇生科	Effects of Various Antiepileptics Used to Alleviate Neuropathic Pain on Compound Action Potential in Frog Sciatic Nerves: Comparison with Those of Local Anesthetics.	Biomed Res Int. 1-9,2014.
68	中尾 佳史	産科婦人科	Minimal deviation endometrioid adenocarcinoma of the endometrium and its MRI findings.	Eur J Gynaecol Oncol. XXXV(2):185-187, 2014.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
69	山本 聡一郎	眼科	Feasibility of using gelatin-microbial transglutaminase complex to repair experimental retinal detachment in rabbit eyes.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 251(4):1109-1114, 2013.
70	平田 憲	眼科	A simulated eye for vitreous surgery using Japanese quail eggs.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 251(6):1621-1624, 2013.
71	平田 憲	眼科	Eccrine hidrocystoma arising at the tarsal plate during childhood.	Case Rep Ophthalmol. 4(2):61-63,2013.
72	平田 憲	眼科	A simple and easy method using rigid endoscope to detect iridocorneal and keratolenticular adhesions in Peters' anomaly.	Case Rep Ophthalmol. 4(3):238-242,2013.
73	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	Innate immune reactions in locally limited tonsillar cancer.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 270(10):2751-2758,2013.
74	山下 佳雄	歯科口腔外科	Case of pediatric acute promyelocytic leukemia presenting as extramedullary tumor of the mandible.	Head Neck. 35(10):E310-E313, 2013.
75	阪本 雄一郎	救命救急センター	Studies on therapeutic effects and pathological features of an antithrombin preparation in septic disseminated intravascular coagulation patients.	Yonsei Med J. 54(3):686-689, 2013.
76	岩村 高志	救命救急センター	An Utstein-style examination of out-of-hospital cardiac arrest patients in Saga Prefecture, Japan.	J Nippon Med Sch. 80(3):184-191, 2013.
77	江口 仁	総合診療部	Arm Span-height difference is correlated with gastroesophageal reflux symptoms in aged Japanese subjects.	J Clin Biochem Nutr. 52(1):89-93,2013.
78	青木 茂久	病理部	Epithelial-to-mesenchymal transition and slit function of mesothelial cells are regulated by the cross talk between mesothelial cells and endothelial cells.	Am J Physiol Renal Physiol. 306:F116-F122, 2014.
79	青木 茂久	病理部	Adipose tissue behavior is distinctly regulated by neighboring cells and fluid flow stress: a possible role of adipose tissue in peritoneal fibrosis.	J Artif Organs. 16(3):322-331, 2013.
80	甲斐 敬太	病理部	A case of mucinous cholangiocarcinoma showing features of hepatocellular carcinoma.	Pathol Int. 63(8):419-421, 2013.
81	甲斐 敬太	病理部	A case of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma of the gastrointestinal tract showing extensive plasma cell differentiation with prominent Russell bodies.	World J Clin Cases. 1(5):176-180,2013.
82	甲斐 敬太	病理部	Mitotic count reflects prognosis of gallbladder cancer particularly among patients with T3 tumor.	Mol Clin Oncol. 1(4):633-638,2013.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
83	甲斐 敬太	病理部	Actual status of clinical diagnosis in patients with primary gallbladder cancer associated with adenomyomatosis.	Indian J Gastroenterol. 32(6):386-391, 2013.
84	西島(松延)亜紀	病理部	Three-dimensional culture model for analyzing crosstalk between adipose tissue and hepatocytes.	Cell Tissue Res. 352 (3): 611-621, 2013.
85	内橋 和芳	病理部	Osteoblast migration into type I collagen gel and differentiation to osteocyte-like cells within a self-produced mineralized matrix: A novel system for analyzing differentiation from osteoblast to osteocyte.	Bone. 52(1):102-110, 2013.
86	内橋 和芳	病理部	Phosphaturic mesenchymal tumor, nonphosphaturic variant, causing fatal pulmonary metastasis.	Hum Pathol. 44(11):2614-2618, 2013.
87	矢ヶ部 知美	地域医療支援センター	Severe eosinophilic pneumonia presenting during gemcitabine adjuvant chemotherapy.	World J Surg Oncol. 11:167,2013.
88	大枝 敏	肝疾患センター	Survival advantage of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma: comparison with ethanol injection.	Hepatogastroenterology. 60(126):1399-1404,2013.
89	河口 康典	肝疾患センター	Whole-body Insulin Resistance is Associated with Elevated Serum α -fetoprotein Levels in Patients with Chronic Hepatitis C.	Intern Med. 52(21):2393-2400, 2013.

計 89

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係る業務、重篤な有害事象及び不具合等に対して研究者等が実施すべき事項に関すること 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理について、利益相反の手続きについて 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 2 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 「当院の治験の現状について」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究について」、 「医師主導型臨床研究の現況から今後について」	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・重症心不全に対する補助人工腎臓の管理
- ・脳神経外科手術に必要な微小外科解剖
- ・先進医療「硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢の治療」研修会
- ・皮膚病理診断学
- ・泌尿器・病理・放射線科症例検討会
- ・口腔がん治療法検討会
- ・ドクターカー・ドクターヘリ・プレホスピタル診療 等 計71件

2 研修の実績

研修医の人数	73.07人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
多田 芳史	膠原病リウマチ内科	科長	29年	
原 英夫	神経内科	科長	31年	
荒金 尚子	呼吸器内科	科長(代行)	27年	
木村 晋也	血液・腫瘍内科	科長	28年	
野出 孝一	循環器内科	科長	26年	
池田 裕次	腎臓内科	科長	27年	
藤本 一真	消化器内科	科長	35年	
安西 慶三	肝臓・糖尿病・ 内分泌内科	科長	28年	
成澤 寛	皮膚科	科長	34年	
能城 浩和	一般・消化器外科	科長	29年	
森田 茂樹	心臓血管外科	科長	34年	
河島 雅到	脳神経外科	科長(代行)	20年	
馬渡 正明	整形外科	科長	31年	
魚住 二郎	泌尿器科	科長	36年	
上村 哲司	形成外科	科長	27年	
松尾 宗明	小児科	科長(代行)	29年	
横山 正俊	産婦人科	科長	30年	
江内田 寛	眼科	科長	20年	
倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	科長	32年	
後藤 昌昭	歯科口腔外科	科長	37年	
入江 裕之	放射線科	科長	28年	
浅見 豊子	リハビリテーション科	先進総合機能回復セ ンター副センター長	30年	
門司 晃	精神神経科	科長	29年	
坂口 嘉郎	麻酔科蘇生科	科長	27年	
戸田 修二	病理診断科	病理部長	30年	
阪本 雄一郎	救命救急センター	センター長	21年	
山下 秀一	総合診療部	部長	30年	
青木 洋介	感染制御部	部長	30年	
杉岡 隆	地域医療支援学講座 (総合内科部門)	講座主任	24年	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	該当なし
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 森田 茂樹
管理担当者氏名	診療記録センター長：山下 秀一、放射線部長：入江 裕之、 看護部長：長谷川 正志、薬剤部長：藤戸 博、総務課長：濱野 満夫、 医事課長：内藤 浩幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 医事課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターにお いて、1患者1ファイルで集中管理し ている。 診療録の院外持出は、診療記録記載 マニュアルにより禁止している。 エックス線写真は、放射線部におい て集中管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課	
	第規 一則 号第 一 掲 条 げ の 十 一 体 制 第 一 確 保 各 号 状 況 及 び 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	
		医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	
		医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	
		医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理室
		専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部
		医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医事課

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																																											
・ 指針の主な内容： 第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。) 第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針																																												
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																											
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項																																												
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 1 回																																											
・ 研修の主な内容： 平成 2 5 年度実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>研修内容 (テーマ・講師)</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 1 回「放射線部 検査部におけるインシデント報告 2012」 (放射線科 講師 野口智幸 検査部 検査技師長 東谷孝徳)</td> <td>平成 25 年 6 月 11 日 (30 分)</td> <td rowspan="7">1, 220 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>平成 25 年 6 月 24 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 6 月 25 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 6 月 26 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 1 回目</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 2 回目</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 6 月 28 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)</td> <td>平成 26 年 3 月 (30 分)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第 2 回「医療機器を安全に使用するために必要な電気の知識」 (ME センター副センター長 田中勝男)</td> <td>平成 25 年 9 月 3 日 (30 分)</td> <td rowspan="4">1, 179 名</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>平成 25 年 9 月 24 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 9 月 25 日 (30 分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 1 回目</td> </tr> </tbody> </table>		No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第 1 回「放射線部 検査部におけるインシデント報告 2012」 (放射線科 講師 野口智幸 検査部 検査技師長 東谷孝徳)	平成 25 年 6 月 11 日 (30 分)	1, 220 名	2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 6 月 24 日 (30 分)	3	〃	平成 25 年 6 月 25 日 (30 分)	4	〃	平成 25 年 6 月 26 日 (30 分)	5	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 1 回目	6	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 2 回目	7	〃	平成 25 年 6 月 28 日 (30 分)	—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)		8	第 2 回「医療機器を安全に使用するために必要な電気の知識」 (ME センター副センター長 田中勝男)	平成 25 年 9 月 3 日 (30 分)	1, 179 名	9	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 9 月 24 日 (30 分)	10	〃	平成 25 年 9 月 25 日 (30 分)	11	〃	平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 1 回目
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																									
1	第 1 回「放射線部 検査部におけるインシデント報告 2012」 (放射線科 講師 野口智幸 検査部 検査技師長 東谷孝徳)	平成 25 年 6 月 11 日 (30 分)	1, 220 名																																									
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 6 月 24 日 (30 分)																																										
3	〃	平成 25 年 6 月 25 日 (30 分)																																										
4	〃	平成 25 年 6 月 26 日 (30 分)																																										
5	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 1 回目																																										
6	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 2 回目																																										
7	〃	平成 25 年 6 月 28 日 (30 分)																																										
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)																																										
8	第 2 回「医療機器を安全に使用するために必要な電気の知識」 (ME センター副センター長 田中勝男)	平成 25 年 9 月 3 日 (30 分)	1, 179 名																																									
9	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 9 月 24 日 (30 分)																																										
10	〃	平成 25 年 9 月 25 日 (30 分)																																										
11	〃	平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 1 回目																																										

12	〃	平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 2 回目	1,038 名
13	〃	平成 25 年 9 月 27 日 (30 分)	
14	〃	平成 25 年 9 月 30 日 (30 分)	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)	
15	第 3 回 「お薬の管理について」 (副薬剤部長 持永早希子) 「多数傷病者発生を想定した災害訓練」 (DVD 供覧) (災害対策室長 成澤寛)	平成 26 年 2 月 4 日 (30 分)	
16	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 2 月 17 日 (30 分)	
17	〃	平成 26 年 2 月 18 日 (30 分)	
18	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 1 回目	
19	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 2 回目	
20	〃	平成 26 年 2 月 20 日 (30 分)	
21	〃	平成 26 年 2 月 21 日 (30 分)	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【改善事例】

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生的事象に関連する部署と医療安全管理室で対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

平成25年 4月16日 病理解剖受付時間の周知
平成25年 9月19日 転倒転落の安全対策基準の改訂について
平成25年11月19日 電子カルテ「病状家族説明フォーマット」の改訂について
(周知依頼)
平成25年12月19日 新棟開設に伴うハリーコールアナウンスについて (周知依頼)
平成26年 1月 1日 インシデント・アクシデント速報システムの改訂について
平成26年 2月20日 心臓CT用β遮断薬の導入に伴う検査前確認表及び指示方法
変更について (周知依頼)
平成26年 3月20日 AED及び一般的除細動器の適切な管理「日常点検」の実施に
ついて (周知依頼)
平成26年 3月20日 医療安全管理マニュアルの改訂について

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (2名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (5名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・無
・ 所属職員： 専任（２）名 兼任（１９）名 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存， その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに， 必要な指導を行うこと。 (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに， 必要な指導を行うこと。 (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに， 必要な指導を行うこと。 (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (6) その他医療安全対策の推進に関すること。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無		
・ 指針の主な内容： 第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針			
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回		
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。			
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 1 回		
・ 研修の主な内容： 平成 2 5 年度実績			
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	第 1 回 「最近話題の感染症」 (感染制御部 青木洋介部長、濱田洋平医員)	平成 25 年 6 月 11 日 (30 分)	1, 220 名
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 6 月 24 日 (30 分)	
3	〃	平成 25 年 6 月 25 日 (30 分)	
4	〃	平成 25 年 6 月 26 日 (30 分)	
5	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 1 回目	
6	〃	平成 25 年 6 月 27 日 (30 分) 2 回目	
7	〃	平成 25 年 6 月 28 日 (30 分)	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)	
8	第 2 回 「入院患者の発熱について」 (感染制御部 青木洋介部長)	平成 25 年 9 月 3 日 (30 分)	1, 179 名
9	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 25 年 9 月 24 日 (30 分)	
10	〃	平成 25 年 9 月 25 日 (30 分)	
11	〃	平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 1 回目	
12	〃	平成 25 年 9 月 26 日 (30 分) 2 回目	
13	〃	平成 25 年 9 月 27 日 (30 分)	
14	〃	平成 25 年 9 月 30 日 (30 分)	
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)	

15	第3回「口腔衛生について」 (歯科口腔外科学 准教授 山下 佳雄)	平成26年 2月 4日 (30分)	1,038名
16	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成26年2月17日 (30分)	
17	〃	平成26年2月18日 (30分)	
18	〃	平成26年2月19日 (30分) 1回目	
19	〃	平成26年2月19日 (30分) 2回目	
20	〃	平成26年2月20日 (30分)	
21	〃	平成26年2月21日 (30分)	
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成26年 3月 (30分)	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。

新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や治療、及び感染対策の確認を行っている。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無																													
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回																													
・ 研修の主な内容： 平成 25 年度実績 <table border="1"><thead><tr><th>No</th><th>研修内容 (テーマ・講師)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>第 3 回「口腔衛生について」 (歯科口腔外科学 准教授 山下 佳雄)</td><td>平成 26 年 2 月 4 日 (30 分)</td><td rowspan="8">1,038 名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成 26 年 2 月 17 日 (30 分)</td></tr><tr><td>3</td><td>〃</td><td>平成 26 年 2 月 18 日 (30 分)</td></tr><tr><td>4</td><td>〃</td><td>平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 1 回目</td></tr><tr><td>5</td><td>〃</td><td>平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 2 回目</td></tr><tr><td>6</td><td>〃</td><td>平成 26 年 2 月 20 日 (30 分)</td></tr><tr><td>7</td><td>〃</td><td>平成 26 年 2 月 21 日 (30 分)</td></tr><tr><td>—</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)</td><td>平成 26 年 3 月 (30 分)</td></tr></tbody></table>		No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第 3 回「口腔衛生について」 (歯科口腔外科学 准教授 山下 佳雄)	平成 26 年 2 月 4 日 (30 分)	1,038 名	2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 2 月 17 日 (30 分)	3	〃	平成 26 年 2 月 18 日 (30 分)	4	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 1 回目	5	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 2 回目	6	〃	平成 26 年 2 月 20 日 (30 分)	7	〃	平成 26 年 2 月 21 日 (30 分)	—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																											
1	第 3 回「口腔衛生について」 (歯科口腔外科学 准教授 山下 佳雄)	平成 26 年 2 月 4 日 (30 分)	1,038 名																											
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 26 年 2 月 17 日 (30 分)																												
3	〃	平成 26 年 2 月 18 日 (30 分)																												
4	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 1 回目																												
5	〃	平成 26 年 2 月 19 日 (30 分) 2 回目																												
6	〃	平成 26 年 2 月 20 日 (30 分)																												
7	〃	平成 26 年 2 月 21 日 (30 分)																												
—	(本開催研修会の収録ビデオ Web 上映)	平成 26 年 3 月 (30 分)																												
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																														
・ 手順書の作成 (④・無) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。 (2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。 (3) 麻薬、覚せい剤原料、第 1 種・第 2 種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。 (4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。 (5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。 (6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けている。 (7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。 (8) 注射薬調整では、2 度以上の薬剤確認を行っている。 (9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。 (10) 新鮮凍結血漿は常に 37℃で溶解し、3 時間以内に使用している。																														
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																														
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDA メーリングリスト登録による医薬品情報入手、日本医療評価機構 HP における医療事故収集等事業からの情報、厚生省監修 Drug Safety Update (DSU) 医薬品安全対策情報、日本医療機能評価機構の「医療安全情報」などの情報入手とともにメーカーに改定後の添付文書の送付を依頼している。 また、直近の PMDA 医療安全情報 No. 44 「医薬品処方オーダー時の間違い」等は病棟担当者を通じて速やかに病棟へ案内した。その他、DSU も含め「薬剤部からのお知らせ」として小冊子にまとめ月に 1 回、各病棟、各診療科へ配布している。緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ、また、病棟担当薬剤師からも、適宜、情報提供を行っている。 PMDA 医療安全情報 No. 44 「医薬品処方オーダー時の間違い」や日本医療機能評価機構からの医療安全情報は、医学部 5 年生教育の教育資料としても活用している。																														

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 4 回
・ 研修の主な内容： 除細動装置や人工呼吸器等の有効性・安全性に関する事項。 医療機器の使用方法に関する事項。 医療機器の不具合が発生した場合の対応。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (㊦・無) ・ 保守点検の主な内容： (医療機器関係) 点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるものの大きく分類すると、 外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱 説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を 行っている。 (放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的 点検等、保守点検表を作成し行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした 改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (㊦・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 【収集方法】 (医療機器関係) - 平成25年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用の ための情報収集等を行っている。 - 各製造業者より安全情報が提供される。 - 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬 品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。 (放射線関係) - 各製造業者より安全情報が提供される。 - 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬 品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。 - 平成25年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用の ための情報収集等を行っている。 (1) 第69回日本放射線技術学会総会学術大会（主催：公益社団法人日本放射線技術学会） （平成25年4月 神奈川） (2) 第2回九州CTフォーラム（主催：九州CT研究会） （平成25年5月 福岡）	

- (3) 第4回CTCトレーニング (主催：日本腹部放射線研究会)
(平成25年6月 栃木)
- (4) 第27回日本核医学技術学会九州地方会学術大会 (主催：日本核医学技術学会九州地方会)
(平成25年7月 沖縄)
- (5) 第3回消化管先進画像診断研究会 (主催：消化管先進画像診断研究会)
(平成25年9月 福岡)
- (6) 第41回日本放射線技術学会秋季学術大会 (主催：公益社団法人日本放射線技術学会)
(平成25年10月 福岡)
- (7) 第54回放射線治療研究会 (主催：放射線治療研究会) (平成25年11月 福岡)
- (8) 第16回放射線治療品質管理士講習会 (主催：放射線治療品質管理機構)
(平成26年1月 東京)

【提供・周知方法】

(医療機器関係)

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

(放射線関係)

- ・ 学会等の報告会を行い、周知している。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 最所 力男	
閲覧担当者氏名	医事課長 内藤 浩幸	
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室	
閲覧の手続の概要		
診療情報の提供を受けようとする者（申請者）が本院の診療情報提供申請書により病院長に申請する。 病院長は該当の診療科長等へ差し支えの有無を照会し、その回答に基づき、可否を決定し、申請者に通知する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 (ver. 5.0) の認定期間が平成 26 年 7 月 25 日で終了。 今後、申請予定。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 ・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院ホームページへの掲載, 病院広報誌, テレビ番組出演 等。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 ・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 以下の横断的診療班 (室) を設置している。 ・褥瘡対策班 ・緩和ケア診療班 ・栄養サポート班 ・輸血療法室 ・脳卒中診療班 ・化学療法室 ・口腔ケアサポート班 ・呼吸サポート班 ・糖尿病診療班	

九州厚生局長 殿

佐賀大学医学部附属病院長
森 田 茂 樹 (印)

佐賀大学医学部附属病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和 23 年政令第 326 号）第 4 条の 3 の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名 称
変更があった事項及びその内容
集中治療室 6 床 (ICU、隔離室 1、隔離室 2) を倉庫に用途変更し、新棟に集中治療室 16 床 (集中治療室 10 床: 7201 号室～7207 号室、EICU 6 床: 7208 号室～7211 号室) を増設、また、無菌病室 1 床 (216 号室) を倉庫に用途変更し、新棟に無菌病室 4 床 (8213 号室～8216 号室) を増設したことにより、開設承認事項の変更申請をし、平成 25 年 12 月 30 日より使用承認を受けたことにかかる届出を、平成 26 年 1 月 6 日付けで厚生労働大臣へ提出。 集中治療室の病床数 変更前 : 6 床 (ICU、隔離室 1、隔離室 2) 変更後 : 16 床 (集中治療室 10 床: 7201 号室～7207 号室、 EICU 6 床: 7208 号室～7211 号室) 集中治療室の床面積 変更前 : 142. 60㎡ (1 床あたり 23. 76㎡) 変更後 : 293. 80㎡ (1 床あたり 集中治療室 17. 91㎡～19. 96㎡、 EICU 16. 87㎡～19. 40㎡) 無菌病室の病床数 [固定式] 変更前 : 2 床 (216 号室、755 号室) 変更後 : 5 床 (755 号室、8213 号室、8214 号室、8215 号室、8216 号室) 無菌病室の床面積 [固定式] 変更前 : 30. 30㎡ (216 号室: 15. 3㎡、755 号室: 15. 0㎡) 変更後 : 73. 81㎡ (755 号室: 15. 0㎡、 8213 号室～8216 号室: 58. 81㎡ (1 床あたり 14. 06㎡～14. 95㎡)) 無菌病室の空気清浄度 [固定式] 変更前 : 216 号室クラス 10, 000、755 号室クラス 100 変更後 : 755 号室クラス 100、8213 号室～8216 号室クラス 10, 000

- (注) 1 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
 2 開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。
 3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。